

**<記事>セメント製造におけるリサイクル資源の活用
と環境対策：ハロゲン化物の分解と分離を中心
にして(主題：循環型社会構築のための素材開発と
そのプロセッシング)(平成 10 年度東北大学素材工学
研究所研究懇談会)(素材工学研究会記事)**

著者	伊藤 光弘
雑誌名	東北大学素材工学研究所彙報 = Bulletin of the Institute for Advanced Materials Processing, Tohoku University
巻 号	54 1/2
ページ	115-115
発行年	1999-03-26
URL	http://hdl.handle.net/10097/34167

(5) ダイオキシン発生機構の解明

大阪大学先端科学技術共同センター

丸 川 雄 浄

ダイオキシンの害悪性が顕在化しているにもかかわらず、ダイオキシンの生成機構はまだ解明されていない。そこで、熱力学的な検討と実験によって、ダイオキシンの生成機構および分解機構について、温度、酸素ポテンシャルおよび速度論的な面から考察を加えた。

平成10年度東北大学素材工学研究所
研究懇談会(平成10年11月12日(木), 13日(金))
於 東北大学素材工学研究所)主題：循環型社会構築のための素材開発と
そのプロセッシングセメント製造におけるリサイクル資源の
活用と環境対策

～ハロゲン化物の分解と分離を中心にして～

太平洋セメント(株) 伊 藤 光 弘

塩素は都市ゴミ焼却灰や塩素系プラスチックに多く含まれ、それをセメント原料とする場合には品質や製造プロセスの安定化の観点から好ましくない物質と考えられる。一方では、この塩素系廃棄物の処理法として、セメント原料や燃料の一部として利用する試みがある。本講演では、当社が取り組んでいる塩素系廃棄物のセメント原・燃料化処理法の開発状況を述べ、また、特定フロンに由来するセメント焼成キルンによる分解技術についても紹介する。

貝殻から機能性無機材料をつくる

小樽商科大学 笹 木 圭 子

周囲を海で囲まれた我が国は水産資源を多く有し、その恩恵に浴している。漁業(魚介類)の水揚げ量の増加に伴い、廃棄物の量も増大し、その有効な処理法が望まれる。本講演では、北海道で多量に排出されるホタテ貝殻の有効利用・処理法の開発を目指した筆者らの取り組みを紹介する。すなわち、貝殻成分のカルサイト型炭酸カルシウムを高活性なアラゴナイト型へと換える新しい手法を紹介し、生成したアラゴナイト粉体の純度、特性等について述べる。